

## VI 編集後記

今年も不順な気候が続いています。エルニーニョ現象の影響とか。いったいどうなってしまうのでしょうか。以前、ハワイ島を訪問した時、天文台見学のツアーに参加したところ、ガイドさんが大変地球温暖化について詳しい方らしく、地球温暖化は排気ガスのせいではなく、最近では夜でも明るいため、生態系がくるっているためだ、と言う話をしていました。いったい本当の、本当の原因はなんのでしょうか。温まった地球がある時、急に冷たくなったらどうなるのでしょうか。素人はいい加減な想像をするものですね。

さて、わがNPO法人アジア近代化研究所の機関誌「*e-Magazine* 第14号」が完成しましたので、お届けします。今回は長い論文、しかも1本は英語の論文ですので、よほど気を引き締めてかかれないと、理解するのに苦労するかもしれませんが、その分、得るものも大きいと思います。ぜひご一読をお勧めします。

これまでにも書きましたが、この雑誌は本来、紹介、解説、啓蒙、話題提供、エッセイ、旅行記などを中心としており、読者の皆さんが読みたいものを選んで読んでいただければ幸いです。我が国、島嶼問題研究の第一人者である嘉数教授の英文論文は世界の大学をあちこち飛び回って、調査し、研究し、教えながら、島嶼問題について

の、教授の長い研究成果を示すものです。読んでいただければわかる通り、実に充実した内容で、ぜひご一読の後、コメントをお寄せいただければ、執筆者も喜ぶことでしょう。

2本の長い論文に加えて、格調高い2本の論文が掲載されています。1本はアベノミクスと並んで注目される、モディノミクスで知られるインドのモディ首相が進める経済政策を検討するもので、多くの日本人、特に日本企業の関係者には役立つことは間違いないでしょう。もう1本は、永野名誉教授の論文ですが、前回に続いて、今回は2回目です。日本の植民地時代に韓国で活躍した外交官・若松兎三郎の生涯を詳細に描くもので、われわれもぜひ学びたいと思います。本稿は完成すれば、韓国でも発表され、その後、単行本として発行されると聞いています。

冷え切った日韓関係を憂慮する永野氏が日本植民地時代にさかのぼって、日韓関係を考え直そうとするもので、日本のマスコミも韓国のマスコミも注目していると聞きます。長い時間をかけ、温めてきた研究成果であるだけに、われわれ日本人ももっと関心を持っていきたいものです。本稿は今後も続きますが、完成する日をおおいに期待しましょう。(朽木)